



▲心を合わせてハンドベル演奏（連尺小）
－ 1学期終業式で－

かいほつ 69号

學 小豆塚
六年 江尻 堯

岡崎市現職研修委員会
特別支援教育部会
平成25年12月2日発行



会社で働くということ

矢作南小学校長

山口 和雄

通勤途中の車内で、気づいたり考えたりすることがいろいろあります。最近、通学する子どもたちの動きが気になります。勤務先に近づくまでに、学生を見かけることもありますが、ほとんどは、いろいろな中学校の生徒です。自転車で乗ったり、歩いたりして通学していきます。そんな中学生に交じって、どこかで見かけたと思う少年が自転車に乗っていました。

いろいろ確かめてみると、特別支援学級の交流会で見かけた少年でした。昨年度末に市内の中学校を卒業し、現在は職業訓練校に通学しているということでした。最近になって、職業訓練校から現場実習ということで、市内にある某自動車会社の特例子会社に通っているということでした。私が見かけたのは、実習に通う姿だったのです。

その会社に直接尋ねてみると、今回の実習は試験的なもので、まもなく実習を終えるということでした。この会社には、昨年度までにこうした実習を経て、次の年の春から正式に勤め始めた子どもたちが数名いるそうです。

会社の方に、小中学校で身に付けておくべきことをお聞きしました。

- ① あいさつがしっかりでき、「はい」という返事もきちんとできる子が多いです。しかし、いざ仕事を始めてみると、中身が分かっていないことがあります。また、ほうきや雑巾を持って掃除をしてくれます。しかし、どこが汚れていて、どこをきれいにすると掃除をしたことになるのか、よく分からないことがあります。

- ② 会社で働くということは、グループで一緒に行動することです。集団の生活で仲間と一緒に活動することができなければなりません。

- ③ 軽い道具なのですが、持ち続けていくだけの握力がなかったり、少し歩くだけですぐ疲れてしまったりします。生活していくのに必要な基礎的な体力が必要です。

大きく言えば「知、徳、体」の大切さを教えていただいたのかもしれない。たまたま交流会で見かけた少年から多くのことを学びました。今後も、この少年が大きく成長していつてくれることを願わずにはいられません。

子どもと親の集い ブロック交流会

楽しかった七夕交流会

六ツ美・六ツ美北ブロック

六北中 二年 磯井 彩帆

北部小に着いたらすぐたんざくを飾りました。その後、自己紹介をしました。英語しりとりをしました。小学校の子と仲良くなるために七夕ゲームをしました。輪になって歌ったり、シールを集めたりして楽しかったです。たくさん友達ができました。中学生はみんなグループのリーダーになりました。私はもう二年生なのでしっかりがんばりました。最後に「友だちはいいもんだ」をみんなで元気に歌いました。



▲短冊に願いを込めて



熱戦、オリンピックゲーム

新香山・常磐ブロック

新香山中 一年 大水 涼太

九月二十七日、ブロック交流会がありました。

僕は、オリンピックゲームでアンカーを常磐中の生徒と代わりながらやりました。僕は、ワールドサッカーなどでアンカーをしました。楽しかったです。僕は象チームでした。象チームは二位でした。二位は、ライオンチームと同点でした。ジャンケンをして二位になりました。僕は負けてしまったけど、みんなで力を合わせて勝ちました。よかったです。

午後は、奥殿陣屋で、バラの匂いがかいんだり、散策をしたりして過ごしました。その間、お母さんたちがお菓子を作っていました。お母さんが作ったお菓子はおいしかったです。家でも作ってもらいました。楽しい一日でした。



▲トーテムポールゲームの様子

中学校施設見学

春日台職業訓練校見学を終えて

美川中 教諭 久納 大佳

六月十日に、春日井市にある春日台職業訓練校の見学会に参加する機会を得ました。作業実習による技能訓練や寮生活を通じての生活訓練を中心に見学しました。

訓練科目は機械科、縫製科、木工科、陶磁器科、紙器製造科の五科があり、それぞれの科の中で「規律を守る」「報告する」「持続できる」など、就職をして社会生活を営んでいく上で必要な事柄を学んでいる様子が見学できました。特に印象的であったのが、どの科の生徒も黙々と自分の作業に集中していたことです。私たちが教室の中に入っても集中が途切れず、作業を続けていました。また、作業中の報告の様子や動作から、普段から決まり事を守って作業を行っていることや、社会生活を営めるように支援がなされていることを見てとることができました。

日常生活に必要な能力は、一人一人の能力に合わせた適切な支援と、持続的な訓練によって身に付けることが必要なのだと感じた見学会でした。

職場体験

ネギの植え替えと秋冬野菜の種まき

葵中 三年 川崎 智貴

夏休みの八月二十一日に、野菜農家で、職場体験学習をしました。まず初めにネギの植え替えをしました。真剣に植え続けたら、長靴にどろが、いっぱいについて大変でした。休憩した後、もう一度、ネギの植え替えをしました。やっているうちに、全身、汗びっしょりになりました。それから、秋冬野菜の種まきをしました。まく前に土に水をかけました。種をまいているとき、どこにまいたのか分からなくなり、別の種をまくのに困ってしまいました。

学習を終えた後、スイカを食べました。とてもおいしかったです。ぼくたちが植えた野菜の苗が早く大きくなったらいいなと思います。



▲「ねえ、どこにまけばいいの」

岡崎ライオンズクラブ 社会見学



はじめての社会見学

藤川小 三年 山本 美咲

わたしは、はじめて社会見学にさんかしました。ライオンズのおじさんたちがしょうたいしてくれてとてもうれしかったです。ありがとうございます。バスの中でじこしょうかいをしたときは、どきどきしたけどしつかり名前とすきなことが言えました。

名古やこう水ぞくかんについて、すごく大きくてびっくりしました。はじめに、南かんに行きました。大きなカメとペンギンと足の長いカニを見ました。ペンギンが水からりとび上がったたり、水にとびこんだりしてびっくりしました。

つぎに北かんのメインプールに行っておべんとうを食べました。お母さんの作ってくれたおべんとうは、とてもおいしかったです。おべんとうを食べ終わるとイルカのショーを見ました。ジャンプがカッコよかったです。

つぎに外のしおかせ広場に行っておにごっこをしてあそびました。とても楽しい一日でした。

すごかった水ぞくかん

岩津小 六年 吉村 千里

なごやこう水ぞくかんに行きました。イルカのショーを見ました。イルカのジャンプがすごかったです。とても高くとんでいました。たくさんのイルカがなかよくジャンプしているのいいな、と思いました。

シャチのトレーニングも少しだけ見ることができました。ベルーガはとても大きくて、びっくりしました。白くてかわいい顔をしていました。

ウミガメの赤ちゃんを見ました。とてもかわいかったです。三さいのカメもいました。大きかったです。

また、家ぞくで行きたいと思います。また、しょうたいしてくれたらうれいです。

おかさきライオンズクラブのみなさん、ありがとうございます。



▲「うわあ、ベルーガ大きいな」

学級紹介

新しい学級で

矢北小 教諭 吉見 恵子

はなのき組は、本年度新設されたばかりの病弱・虚弱クラスです。一年生二名が在籍しています。二人は、クラスでそれぞれの課題に取り組んだり、交流学級で友達と関わりながら勉強したりしています。

児童Aは、授業中、拡大教科書を使い、天板の角度が自由に変えられる台(書見台)を机の上に置いて本を読んだり、文字を書いたりします。児童Bは、小柄で重い物が持てないため、清掃中の机運びなどはさりげなく交流学級の子が手伝ってくれます。

二人は友達と関わりながら少しずつたくましく成長していつていきます。



▲書見台や拡大教科書を使つての学習



▲ストラックアウトとボウリングで学級レクリエーション

翔南中誕生

翔南中 教諭 伊藤 研治

本年度四月、翔南中誕生と同時に、特別支援学級六組(知)、七組(自・情)が開設されました。南中の特別支援学級が二つに分かれて、新二年生四名が翔南中に移りました。友と別れ、初めは寂しく感じましたが、新たに一年生二名を迎え、教室も次第に活気づいてきました。

真新しい教室でまだ木のおいのする机や備品に囲まれ、最高の環境で勉強できる幸せを日々感じています。

新設の翔南中ではどの大会も「第一回」の大会で、新しいアイデアが盛り込まれています。先日の体育大会では、六組・七組全員が交流学級で競技に参加しました。「翔ザえもん」「南ザえもん」の登場した開会式から閉会式まで、六名全員が精一杯頑張りました。次の文化祭での活躍も楽しみです。

退職された先生より 子どもたちが輝くとき

元特別支援教育部長 高橋 鏡二

退職して半年余が経ちます。四月から新しい職場でお世話になっていますが、改めて多くの子どもたちや保護者、そして先生方との出会いが、私に多くのことを学ばせてくださったと感謝しております。

Aさんは、中学校入学前の教育相談では母親から片時も離れず、服の袖を引つ張って後ろに隠れようとする子でしたが、三年間で大きく成長しました。その成長の原動力となったのは、まず母親をはじめ家族全員のサポートです。母親はAさんの適性を見極め、Aさんが頑張れる部への入部を勧めました。時には一緒に家庭で練習し、意欲を引き出し、継続して頑張る力を生み出したのです。Aさんを教え導いた先生やAさんに励ましの言葉を掛け続けた学級や部活動の仲間の支えも欠かせないものでした。

苦しいこと、辛いことは数多くあっただろうけれども、頑張りを褒め称え、一緒に喜んでくれるという小さな成功体験の積み重ねはAさんの生きる力となったものと思います。学級や部活動で、また家庭においても輝く場や機会が「やればできる」という自信となり、Aさんを育てたとも言えます。

逆境に負けず、強く生きていく子どもたちの成長を信じ、願っています。

楽しく充実した日々に感謝

元六南小 教諭 加藤 裕美

初めて発した言葉。初めてかいた文字、絵。初めて泳いだプール。初めてとんだ跳び箱、縄跳び…。何もかもが初めてのことばかりの試行錯誤の七年間でした。声をかけても、こちらを向くことさえなかった彼らが、話し、かき、泳ぎ、跳び：私の予想以上の姿を見せてくれました。

「頑張れば何でもできる」子どもたちに教えられた日々でした。彼らとその家族とともに頑張ってきた毎日が、私にとっては教員生活の中で最も中身の濃い、やりがいのある七年間でした。

毎日、彼らの成長を見ることができ幸せな日々でした。今後も陰ながら彼らの成長を応援していきたいと思えます。楽しく充実した日々をありがとうございます。



▲子どもたちとともに

東北北陸地区 特別支援教育 研究大会 愛知大会 (三教研 夏季研修会)

特別支援教育研究大会報告

上地小 教諭 犬塚 貴子

八月一日・二日に研究大会が豊田市民文化会館と豊田福祉センターで開催されました。第一日目は、全体会の後、「温もりと絆をあなたへ」をテーマに歌手の今井恵理子氏によるトーク&ミニライブが行われました。自分自身が笑顔であること、焦らず比べず諦めずに子どもと寄り添うことが大切であることを再確認することができました。

第二日目は、分科会が行われました。第二分科会(教科学習)では、学習したことを、日常生活に結び付けることを目標とした二つの実践が提案されました。一つ目の提案では、習得した技能を活用することができるよう様々な場を意図的に設定したり、保護者との連携を工夫したりして、確実に実生活の中で活用できるような支援が考えられていました。二つ目の提案では、算数の便利さを味わうことができる学習内容を工夫することで、子どもたちが学習してよかったという満足感や自己肯定感を味わうことができていました。子どもたちの学習意欲を高める工夫の重要性を実感することができました。

授業力・教師力 アップセミナー

研修会を終えて

根石小 教諭 鎌倉 由佳

子どもの脳のことを、私は何も分かっていませんでした。クラスによく指を吸う子がいました。これまでの私は「指を吸うのをやめなさい」とただ注意をして、吸うのをやめさせてきただけでした。これが間違った対応方法であったことを、脳科学の視点から早川文雄先生が教えてくださいました。子どもが指を吸うのは、不安な気持ちを自分で癒すためだったのです。

今後は、指を吸う行為を見たら、まずは子どもの不安な気持ちを受けとめ、脳に満足感と安心感を与えられるような指導をしていきたいと思えます。



▲講演「発達障がいのある児童生徒の理解と支援」
～脳科学の視点から～
講師 市民病院 副院長・医局長 早川 文雄氏